

日本の民間伝説～很久很久以前～

— 浦島太郎 —



很久很久以前，有一个叫浦岛太郎的年轻渔夫。一天，他来到海边，发现一群孩子正在折磨一只乌龟。浦岛太郎赶走这群孩子，救下了被欺负的乌龟。

于是乌龟说：“为了报答您的救命之恩，我带您去一个好地方，请骑到我的背上来。”浦岛太郎跟着去了。乌龟驮着太郎游入海中，潜向水底。

所到的地方叫龙宫城，是一座建在海底的美丽城堡。美丽得无法用言语形容。乌龟将太郎带入龙宫城中，设宴款待太郎。

宴会开始了，被称作龙女的美丽的公主拿出了一道又一道太郎从没见过的美味佳肴。鲷鱼和比目鱼一个接一个地跳舞。新奇美妙的宴会一直持续着，太郎过着梦一般开心的生活。

宴会持续着，太郎来到龙宫到底过了多久了呢。地上怎么样了，太郎渐渐想起这件事。于是对龙女说：“我想回家了。”龙女得知浦岛太郎要回去感到十分遗憾，作为礼物，送给他一个盒子并对他说：“这是一个玉匣，你绝对不能打开。”

太郎又坐在乌龟背上，手里拿着玉匣回到了地上。上岸后，发现景色和以前有所不同。回到家附近一看发现家也没有了，而且一个认识的人也没有。在龙宫城游玩生活期间，其实地面上已经经历了很长的岁月。太郎在万分悲痛之余，打开了龙女嘱咐“绝对不能打开”的玉匣。匣中冒出滚滚白烟，在白烟中，转眼之间，浦岛太郎变成了一个白发白胡子老头儿。

にほんむかしばなし 日本の昔話～むかし、むかし～

— 浦島太郎 —

昔々、浦島太郎という若い漁師がいました。ある日、太郎が浜辺に行くと、子ども達が集まってカメを苛めていました。太郎は子ども達を追い払って、苛められていたカメを助けてやりました。

するとカメが「助けてもらったお礼に、あなたを良い所に連れて行ってあげますから、私の背に乗ってください」と言うので、太郎はその通りにしました。カメは太郎を背に乗せて海に入って行き、水中に潜っていきました。

着いた所は竜宮城という、海の中に建つ美しいお城でした。その美しさは何事にも言い表せない程。カメが太郎を竜宮城の中に招き入れました。そこでは太郎のために宴が用意されていました。

宴が始まりました。乙姫という美しいお姫様が、太郎に次から次へと見たことのない素晴らしいご馳走を出してくれます。またタイやヒラメが次々と舞を踊ります。何もかもがただただ珍しく面白いこの宴はいつまでも続き、太郎はまるで夢の中にいるようでした。

宴は続き、太郎が竜宮城に来てから一体どれ程の月日が経ったことでしょうか。地上はどうなっているだろうと太郎は段々気になってきました。そこで乙姫に「家に帰りたい」と申し出ました。乙姫は浦島太郎が帰ることを残念がりましたが、お土産にと1つの箱を持たせました。「この箱は玉手箱と言います。絶対に開けてはなりませんよ。」

太郎はまたカメの背に乗せてもらい、玉手箱を手に持ち地上へと戻りました。浜辺に上がってみると、以前と景色が違います。家のあった所に戻ってみても家はなくなっており、知った人も全くなくなっていました。竜宮城で遊び暮らしている間に、とても長い年月が経ってしまったようです。太郎は悲しさのあまり、乙姫に「絶対に開けてはならない」と言われた玉手箱を開けてしまいました。すると、中から白い煙がもくもくと出てきました。その煙を浴びた浦島太郎は、一瞬にして髪もひげも真っ白なお爺さんになってしまいましたとき。